

町家の利活用・流通を考える 「町家を活かしたまちづくりフォーラム」

町の大半が江戸期の姿を残したまま今も生活の場として生き続け、「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されている橿原市今井町。そのまちづくりの拠点の一つである今井地区公民館において、3月15日（日）、今回で第2回目となる「町家を活かしたまちづくりフォーラム ～町家の利活用・流通を考える～」が開催された。

これは、奈良県の主催で、共催として、同町内の民家保全に取り組む「NPO 法人今井まちなみ再生ネットワーク」（上田琢也理事長）が加わって開催されたもので、奈良県内外でまちなみ保全や町家利活用に取り組む人々や地域住民など、約110人が参集し関心の高さをうかがわせた。

また、フォーラムに先立ち、午前中に行われた「町歩き」（町家見学会）には約40人が参加し、現在今井町で行われている、サブリース方式により再生された民家などの空家再生事例などを見学した。

奈良県内には、今井町を始め、奈良町（奈良市）、宇陀市松山地区など、歴史的な街なみが数多く存在する。このような地区における町家などの歴史的建築物を利活用することにより、良好な景観の形成や地域の活性化が期待されるが、フォーラムには、町家を実際に利活用している住民、また、町家の保全・再生に取り組む研究者や流通の専門家等が招かれ、奈良県内に多く残る町家の利活用と流通を推進するための方策について考えて行く場となった。

午後1時30分にスタートしたフォーラムでは、宗田好史氏（京都府立大学准教授）により、「町家を活かしたまちづくり」をテーマに、市民生活や地域コミュニティ形成、また、21世紀に求められる街づくりにおいて町家を残すことの大切さなどについての基調講演が行われ、その後、奈良県土木部まちづくり推進局地域デザイン推進課や「NPO 法人今井まちなみ再生ネットワーク」

から活動の報告が行われた。

引き続いてのパネルディスカッションでは、宗田准教授をコーディネーターに、また、今井町や奈良町で実際に居住し事業を営む人や、京都の町家再生事業に取り組む事業家をパネラーとして、歴史的なまちなみに住むことへの思いや体験談、その他、京都における町家再生についての新しい手法の紹介等が行われた。

午後5時30分からは、江戸時代の町家を改造した民宿「嘉雲亭」において交流会も催され、各地から集まったまちづくりに取り組む参加者が親睦を深め、活発に情報交換を行った。

現在、県内に多く残る歴史的街なみ地区は、その景観を形成している町家が空き家となったり、取り壊されるなどの危機に瀕している状況にある。県は、同フォーラムの立ち上げ・開催に当たって、そのような状況の中、県内のモデルとなる今井町、先進地京都の取組み、パネラーの利活用事例などを参考に、町家利活用と流通を推進するための方策などを大勢の人とともに考え、県内の歴史的地区の再生やまちの活性化などを推進したいとしている。（山城）



パネルディスカッションでは、町家に住むことのすばらしさや、まちづくりの重要性が話し合われた。

これからの主な催し

〔主な行事〕

- 明日香まるごと体験ウォーク・北明日香コース
日時：4月26日（日）（受付）9時～11時
集合場所：豊浦駐車場
参加無料（収穫体験・施設入館等は別途料金や予約が必要のものも有る）
コース：豊浦駐車場→甘樫丘→橘→伝飛鳥板蓋宮跡→亀形石造物→眞神荘→小原→八釣→奥山→飛鳥→水落遺跡→小山→雷→豊浦→豊浦駐車場

村内約10kmをハイキングしながら、コース途中で、春の農産物の収穫体験や自然・歴史文化の体感など、明日香の魅力を楽しむ体験イベント。
交通：近鉄橿原神宮前駅下車徒歩20分 または 橿原神宮前駅東口から明日香周遊バス「赤かめ」で豊浦駐車場バス停下車
問い合わせ先：明日香村役場 地域づくり課
TEL：0744-54-3351
関連URL：<http://www.asukamura.jp/>